



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 374  
May  
2024

## トピックス

### 関係機関との協力推進

AHAセンター ASEAN幹部向け緊急対応防災リーダーシップ事業 日本研修の実施

### 国際会議への参加

第17回APEC防災担当高級実務者会合への参加

### ADRCスタッフ紹介

高磯守 管理部長

## Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
https://www.adrc.asia

© ADRC 2024

### ●関係機関との協力推進

#### AHAセンター ASEAN幹部向け緊急対応防災リーダーシップ事業 日本研修の実施

2024年3月3日～9日に、ASEAN防災人道支援調整センター（AHAセンター）が実施するASEAN幹部向け緊急対応防災リーダーシップ事業（ACE-LEDMP）のミドルレベルを対象とした日本研修を実施しました。ACE-LEDMPは1か月のオンラインプログラム、インドネシアでの1か月の実地研修、日本での1週間の研修を通して、ASEANの防災の取組みをリードする人材を育成するプログラムです。日本研修には5年以上の防災担当部署での勤務経験のあるASEAN9カ国の幹部職員20名と、AHAセンターからの職員4名が参加しました。



人と防災未来センター前での集合写真

内閣府、兵庫県、墨田区、国際復興支援プラットフォーム（IRP）、アジア防災センター（ADRC）などから講義を受けるとともに、越谷レイクタウン、人と防災未来センターなどを視察し、日本の防災政策についての理解を深めました。

また、研修の最後には、学んだことをもとに、今後のASEAN地域のさらなる防災対策の推進について検討を行いました。参加者は、インドネシアに戻り、さらに研修を続け、これらの経験をもとに検討を続けたとのこと。

### ●国際会議への参加

#### 第17回APEC防災担当高級実務者会合への参加

2024年のホストエコノミーであるペルーは今年、一連のAPEC高級実務者会合（SOM）を開催しています。第2回高級実務者会合（SOM2）の開催期間中の2024年5月13日、防災作業部会（EPWG）は、ペルー・リマにあるセロ・ジュリ・コンベンション・センターにおいて第17回APEC防災担当高級実務者会合（SDMOF-17）を開催しました。本会合は、「持続可能な成長と健全な開発のための緊急事態への備えと包括的かつコミュニティアプローチ」というテーマで開催されました。

2020年から2023年までEPWGの共同議長を務めたADRCの鈴木弘二プロジェクト・ディレクターが日本代表団の団長を務め、SDMOFのセッションのひとつで「AI技術を活用した意思決定支援システムのための官民パートナーシップ」プロジェクトを紹介しました。この共同プロジェクトは、衛星

## 続き

ビッグデータと空間人工知能（AI）を活用し、災害リスク軽減・管理に関する意思決定プロセスをモデル化するものです。鈴木氏は特に、1）リモートセンシング技術、AIデータ解析科学、デジタル・ツインニングなどの科学的イノベーションの応用における社会的要因の統合、2）科学的事実に基づく意思決定のための判断基準のモデル化、官民連携によるテスト結果の検証、3）ビッグデータ解析と研究予測に基づく被害状況のリアルタイム把握、といったプロジェクトの特徴について説明を行いました。

SDMOFの参加者は、意思決定のための情報システムの相互運用性に焦点を当て、対応力を向上させるための官民連携による協力の重要性について見識を深めることができました。本プロジェクトは千葉大学環境リモートセンシング研究センターを主幹機関として、ADRC、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、名古屋工業大学（NITech）、オリエンタルコンサルタントグローバル（OCG）、株式会社ウェザーニューズ、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社が参画している他、イタリアの宇宙機関であるイタリア航空宇宙研究センター（CIRA）とも提携して実施される予定です。



SDMOF-17の様子

## ●ADRCスタッフ紹介

### 高磯守 管理部長

2024年4月1日付で兵庫県から派遣されました高磯守と申します。前職は、兵庫県内の中小製造業の技術支援を行う兵庫県立工業技術センターでの管理部門を担当しておりました。

県職では、県内産業の振興や内部管理・調整の勤務が長く、防災関係の経験は多くありません。阪神・淡路大震災時には、東京勤務であったため、震災の揺れを直接経験していないものの、3か月後、兵庫県に戻り、5年間主に県内産業の復旧・復興事業に携わってまいりました。

近年、自然災害が増加傾向にある中で、メンバー国の防災能力の強化、人々が安全に暮らせる地域づくり等に向けて、ADRCが実施する防災能力の向上をはかる事業の展開や多国間のネットワークづくりは、今後、一層重要になってきています。そのような中、今回ADRCで勤務できる機会を得られたことを嬉しく思うとともに、自らの職責を果たしADRCに貢献していきたいと思っております。

国際防災分野での経験はなく、不慣れで、皆様に多々ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、ADRCに与えられた役割が全うできますように、業務に取り組んでまいりますので、よろしくお願ひします。



### 問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は [editor@adrc.asia](mailto:editor@adrc.asia) までEメールをお寄せください。